



## 1. 新しい目標に向かって

新年の始まりは、誰にとっても物ごとの取組への新たなる期待とともに、挑戦への意欲を高めてくれます。それだけに、今年はどのような自分でありたいか、そのためにどのような役割を果たすべきか、を自分自身でしっかりと意識することが大切です。「わからなかったことが理解できて良かった！」という自らの活動の成果を実感するためには、目標を持ち、その実現に向けて力一杯取り組む過程が大きく関係します。私たちは、目標があることで努力をし、努力したことで成果を期待するものです。目標を設定することなく漫然と努力しているだけでは、やる気も高まりません。

そこで、自分自身で目標を設定することで、困難を乗り越えて頑張ろうという強い意志を持つことができるのです。とは言え、努力すれば必ず望んだ結果を手にする訳ではありません。しかし、目標に向かって努力することや諦めずに取り組んだ満足感は、目に見える以上に本人にとってやりがいをもたらしてくれます。その意味で、目標が達成できるに越したことはありませんが、好ましい結果が得られないことで努力がすべて無駄になるとは言い切れません。目標に向けて、自らの力を注ぐことで、充実感や自信をはじめ、次への挑戦につながる意欲も手にできるのです。

このように目標を持つことには大きな意味があります。学ぶことは、まねることと言われますように、学ぶ環境にお手本となる存在は、欠かせません。めざす姿が見えることで、学びが実現するとも言えます。それだけに、身近な存在である私たち大人は、良きお手本としての役割が求められます。子どもは大人の鏡であるとも言われます。

新学期を迎え、私たちが大人として、教師として鏡たる子どものめざす姿であることを意識し、目標をもって前向きに取り組む姿勢を示すことで、その役割を果たしていきたいと思えます。

## 2. 1月1日の出来事

1月1日16時10分頃、「能登半島地震」が発生しました。

それぞれの家庭では、おせち料理を囲んで家族と無事に新しい年を迎えられることに感謝したり、帰省した子どもたちが、親戚の方からお年玉を頂いて、笑顔が溢れる日だったと思います。それが、突然の大きな揺れにより、穏やかな時間は一変しました。建物は倒壊し、津波が押し寄せ、石川県輪島市の中心部「朝市通り」では大規模な火災が発生しました。学校などの教育施設にも被害が相次ぎ、避難所での生活を強いられている子どもも多く、損壊した校舎の修復や通学路の安全確保に時間がかかり、学校生活の再開は見通せないとのことでした。

災害は、いつ起きるか分かりません。

改めて、「自分の命は、自分で守る。」この言葉の大切さを認識したところです。子どもたちには、今できること、一日一日を大切に、今年一年を幸せに過ごしてもらいたいと思えます。

今回の地震により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。